

植栽ジャーナル

なら



し き いろどり

四季彩の庭

第2号

地域の魅力と彩りを活かしたまちづくり

桜井市

みんなでつくる「私たちの庭」

吉野川左岸の景観を守る会

私たちは庭づくり応援団

トヨペットふれあいグリーンキャンペーン

 奈良県

地域の魅力と彩りを 活かしたまちづくり

奈良県の魅力を向上させる「奈良県植栽計画」は、市町村単位でも、行政とそれぞれの地域の方々の力も得て、着々と進んでいます。今回は、その中から桜井市の取組みについて紹介します。

「日本で初めて」がたくさんあるまちを
緑と花で彩って、魅力を発信したい

桜井市



桜井市 都市建設部
部長 紙矢 隆司 さん

奈良盆地の東南部にある桜井市は、古墳や古社などが多く点在するまちです。こうした歴史遺産を生かしながら植栽整備を進め、ひいては魅力的なまちづくり、観光振興などに取り組み、桜井市の今について、桜井市都市建設部の紙矢さんにお話を伺いました。

観光・産業創造都市をめざす桜井市

桜井市は面積98.91km²、そのうち約6割が森林です。人口は平成12年をピークに減少に転じています。人口の減少を少しでも食い止めるべく、施策を進めているところです。

市では第五次総合計画を策定(平成23～32年)し、「観光・産業創造都市」と人のつながりから、新たな歴史が始まるまち」をテーマに、平成23年4月からまちづくりに着手していて、今はちょうど中盤にさしかかったところです。また、平成26年12月には、「奈良県と桜井市とのまちづ

くりに関する包括協定」を結び、県からの支援を得ながら、市内の5地区で地域住民と共にまちづくりに取り組んでおります。にぎわいと活力のあるまちにするため、進めている計画のうち、ここでは植栽計画を始め、地域の魅力と彩りを活かしたさまざまな試みをご紹介します。

古い歴史を持つ桜井市

「やまとは くにのまほろば」と古事記の中でヤマトタケルノミコトが歌われたように、大和平野にある桜井市は、自然豊かな青垣の緑に恵まれた古くから交通の要衝であり、遺跡や古墳なども多く残されています。たとえば、初期ヤマト王権発祥の地ともいわれる纏向遺跡や、海柘榴市、箸墓古墳など、数多くの歴史遺産がありますが、これらをまちづくりにつなげて、観光・産業創造都市として、さまざまな工夫を凝らしているところと考



県では平成24年の『古事記』完成千三百年と、平成32年の『日本書紀』完成千三百年という2つの節目の年をつなぐ9年間にわたり、記紀・万葉プロジェクトを実施しています。桜井市でも、独自にプロジェクトを立ち上げ、大和さくらい100選を一般公募して選定し、芸能発祥の地「土舞台」、「箸墓古墳と三輪山」などの選定箇所を整備する等、さまざまな試みを始めています。

国史跡・珠城山古墳群を整備

桜井市には、纏向遺跡、大神神社を始め、国指定史跡も多くあります。そのうち珠城山古墳群は山の辺の道のコース途上にあります。発掘調査では金銅製の馬具や環頭太刀等が出土しており、国の史跡の指定を受けた後、市が一定の整備を行いました。その後、県の支援をいただいて、平成25年度、眺望を確保するために雑木を除去しました。古墳へ登る階段と解説板も設置、1号墳の石室も整備しました。古墳に登ると見晴らしもよく、二上山や箸墓古墳などを一望することができますようになりました。

桜井駅北口に古墳型の築山を整備

桜井駅は、JR線と近鉄線が乗り入れており、駅の北口は山の辺の道への玄関口でもあります。そこで桜井市では、平成26年度、駅前ロータリーに山の辺の道の雰囲気を出すようなモニユメントとして、箸墓古墳をイメージした緑地を整備しました。春から秋にかけては緑の芝生でおおわれ、周囲に咲く四季折々の花とあいまって、季節感を演出しています。この植栽の維持管理は、市



民の皆さんに協力をいただき、草引きや水やりなどの手入れをお願いしています。

山の辺の道地域づくり協議会との協働

万葉歌碑や大神神社などの古社や古墳が点在する山の辺の道は、歴史ファンやハイカーなど多くの方に人気があります。さらに自然景観を楽しんでいただけるように、山の辺の道地域づくり協議会では、さまざまな活動をしています。道沿いではソバを栽培しており、秋には白い花に彩られます。また、地域の特産品であるみかんの畑では、濃い緑とオレンジのコントラストを楽しめます。

農村景観で桜井の魅力を発信

桜井から明日香へと抜ける磐余の道の近くに、平成27年9月にオープンしたオーベルジュをご紹介します。「オーベルジュ・ド・ぶれざんす桜井」は、県立の「なら食と農の魅力創造国際大学校」(平成28年4月開校)安倍校舎(フードクリエイティブ学科)に併設されたものです。この運営は、全国に高級レストランを展開する(株)ひらまつによります。美しい田園風景の中で、奈良の地域食材を使ったフランス料理が味わえるオーベルジュ(宿泊施設を設けたレストラン)は、観光の新しい拠点になると期待されています。桜井市でも歴史遺産と美しい自然景観を生かした植栽の維持管理等を進めつつ、今後も桜井の魅力を発信していきたいと考えています。



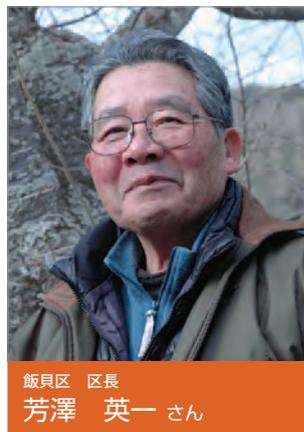
みんなで作る「私たちの庭」

奈良県のほぼ中央に位置する吉野町には、東から西へ吉野川が流れています。その吉野川左岸の堤防沿いの景観維持のため、桜などを植え、木の管理や花の手入れをしているグループ「吉野川左岸の景観を守る会」があります。今回は、その世話役の芳澤さんにお話をうがいました。



吉野川左岸に植えた桜の苗が
10年後、美しい桜並木に……。

吉野川左岸の景観を 守る会 (吉野川沿エリア)



飯貝区 区長
芳澤 英一 さん

堤防沿いを美しい桜並木にしたい

吉野山の桜は全国的に有名ですが、実は吉野川の清流付近では桜はさほど多くありません。そこで、吉野川の左岸沿いの、吉野高校辺りから奈良県吉野土木事務所までの約1kmを美しい桜並木の街道にしたいと、活動を始めました。

平成25年春、近隣に呼びかけて6人の仲間が集まり、まず河津桜の苗木18本を植えました。桜は、苗を植えてから成長して、いい姿になるのに、少なくとも10年はかかります。堤防には雑草、特に葛が多く茂り、葛のツルが桜の苗木に巻きつくとかれるので、草刈りが大変です。草刈りに年約30回、特に4〜8月は大忙しです。何しろ葛は一日で30cmも伸びるのです。でも一生懸命活動した後、仲間と一杯やるのは楽しいですよ。



花壇を作って季節の花を次々と

草刈りばかりではなく、7月には、桜の周辺にコスモスを植えました。その後、廃材で木枠の花壇を作り、平成26年の春にはヤマブキ、キンシバイの苗を植え付け、ヒマワリ、コスモスの種も蒔きました。

桜も、新たに紅陽の苗木を10本植え、6月はアジサイの株を移植。10月には、チューリップや水仙の球根を1200球用意し、吉野小学校の子どもたちや、吉野高校園芸部の生徒にも手伝ってもらって植えました。

小さな種が芽吹き、成長して花が咲く。これは当たり前のようにいて、実に不思議なこと。その自然の不思議にふれること、そして子どもたちとふれあうこと、さらに散歩されている方に「いつもありがとう」と言われるのは、とてもうれしいですね。おかげさまで、メンバーも10人に増えました。平均年齢は65歳、最高齢は76歳。ますます元気です。

少しずつ活動の幅を広げて

最初に植えた河津桜は、2年目に少し花が咲きました。成長した今年は、さらにたくさんの方がつくと思います。吉野山の桜の見頃は4月ですが、それを知らずに3月頃、花見に訪れる人が時々います。そんな人に、この堤にも花がありますよと言えたらいいなと思っています。

平成27年初夏にはヒマワリとコスモスの種を蒔き、秋にはチューリップを植え足しました。春にはたくさんの方が咲くことでしょう。さらに、この冬は吉野土木さんにいただいたパンジーの苗300株を植えました。冬場はカモなどの水鳥も飛んで来るので、バードウォッチングもできます。ちよつと休憩できるようなベンチも作って設置しています。

少し上流には、吉野高校建築デザイン学科の生徒が作ったあずまやがあります。この辺りも少しずつ整備しています。



将来は美しい桜並木と賑わいスポットを

活動4年目の今年、桜の花はかなり咲くのではと期待しています。種や苗を植え育て、花が咲く。この過程の醍醐味を、もっと多くの方に知ってもらいたいですし、一緒にやりたいという人が増えたらと思います。

将来の目標としては、美しい桜並木ができることが一番ですが、その桜並木近くに、道の駅を誘致するか、朝市を開催して、美しい景色を楽しみながら、新鮮な野菜などの買物もできるとなると、きつと賑わいが出てくると思います。手始めに、今年の春はチューリップ祭りをしようかなと考えています。

今後は草止めをして雑草を防ぎ、夏の乾燥も減らしてあげたらと考えています。また、企業や自治体に協賛金のようなものをお願いして、活動をさらに広げたいです。これからも、楽しみながら活動を続けて行きたいと思っています。

佐保路エリア

■奈良市佐紀町

水上池ほとりの休憩スペース

平城宮跡の北東の外れにある水上池。その半島部分の自転車道沿いに県が休憩スペースを整備しました。繁茂した竹やぶの伐採や、シダレザクラ、イロハモミジ、ユキヤナギ等の植栽を行い、四季の彩りを楽しみながら野鳥観察もできる休憩スペースとなりました。

整備後



整備前



魅力ある庭づくりが進んでいます

県や市町村等の実施した彩り整備により、植栽の魅力が向上した箇所を紹介します。

整備前



整備後

今井町の河川公園

中世のまちなみを現代に伝える今井町の東側を流れる飛鳥川。その護岸工事と合わせ、川沿いの一角が親水公園として県や市により整備されました。ソメイヨシノやツバキ、シラカシ等が植栽され、住民や今井町を訪れる人々の憩いの場となっています。

医大周辺エリア

■橿原市今井町

私たちは

庭づくり応援団

トヨペットふれあい

グリーンキャンペーン

(奈良トヨペット株式会社)



40年目のグリーンキャンペーン

昭和51年、全国のトヨペット店が創立20周年を記念して、ふれあいグリーンキャンペーンを始めました。当時、車は公害をまき散らすというイメージがあって、そのイメージを少しでも払拭したいという思いと、地域貢献という観点から、奈良トヨペットでもグリーンキャンペーンをスタートさせ、今年度でちょうど40年目を迎えました。今は車の技術も格段に進歩し、電気自動車も出てきており、この40年の間に時代も変わったなど感じます。この40年の間に時代、県内の緑化推進、自然環境保護に微力ながらお

手伝いできれば嬉しいですし、これから少しずつ続けて行きたいと考えています。

県下で喜ばれる花苗や苗木を贈呈

グリーンキャンペーンでは、県を通じて市町村の要望を聞いていただき、それに添って、喜ばれる花苗や苗木を贈呈しています。花苗などは、駅前や公園などに使っていただいています。贈呈式は毎年春に行っており、国土緑化推進機構の緑の大使であるミスインターナショナル日本代表の方とともに、苗木などを県に贈呈しています。

過去には、植樹後の木々を育成する森林ボランティアも不足していると聞き、社員からボランティアを募って、一緒にやらせていただいたことがあります。苗木を贈呈するだけでなく、自然環境を守り育てていくことの重要性和大変さを知る良い経験となりました。



県営福祉パーク(田原本町)では、贈呈した花苗を地元の子供たちが植えてくれました。

自然豊かな奈良で地域の皆さんとともに

大和は国のまほろば、今でも奈良には豊かな自然が身近にあります。奈良で生まれ育った私も若い時は、変化し続ける都会がいいと思った時期もありますが、今は、昔から変わらぬたまたまの奈良が一番だと思っています。美しい自然と多くの歴史遺産をもつ奈良に、観光客の方々にも来ていただき、住む人が心豊かに暮らせる場所であってほしいと思います。会社も長く続けていると、やはり地域で支えられているのだと身をもって感じており、これからの地域とともにありたいと思います。

王寺エリア

明神山
(王寺町畠田)

開花 5月

山頂の展望台からは、東は若草山、南は大和三山、西にはあべのハルカス等を見渡すことができ、町により植栽されたツツジが彩りを添えています。



彩りの庭だより 春、夏の彩り

植栽整備により魅力の向上した彩りの名所を紹介します。

ツツジ



サクラ



下北山エリア

下北山スポーツ公園
(下北山村上池原)

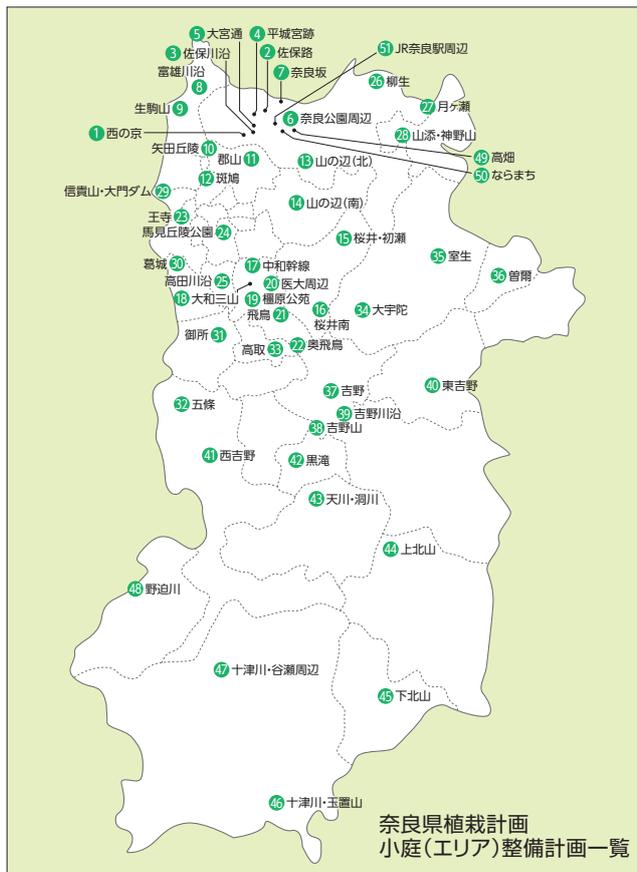
開花 3月下旬~4月上旬

スポーツ公園周辺では、国道沿いから公園内まで続く見事な桜並木を眺めながら、キャンプや温泉等を楽しむことができます。



奈良県植栽計画(「なら四季彩の庭」づくり)では、植栽の整備を通じて地域の魅力向上に取り組んでいます。水辺、田園、森林などの自然やまち、公園、寺社等の歴史文化遺産など、多くの人々が暮らし、訪れる地域を「小庭(エリア)」として市町村とともに選定しています。

これら「小庭(エリア)」について、彩りの魅力を向上させる具体的な手法を検討した上で、整備計画をとりまとめており、奈良県全体が調和のとれた「一つの庭」となることを目指しています。この整備計画に基づき、県、市町村、地元の方々や企業・団体などが協働することで彩りあふれる奈良県づくりを進めていきたいと考えています。(なお、各エリアの整備計画は、奈良県景観・自然環境課のホームページでご覧いただけます。)



「四季彩の庭」づくりのすすめ方
小庭(エリア)整備計画について